

科目名		電気保全			
担当教員		富樫 久夫		実務授業の有無	○
対象学科	電気電子工学科	対象学年	2年	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方		消防設備第四類（自動火災警報設備）の設置基準や設備の構成、設置や保守の方法や決め事を理解し、消防設備士免状を取得できるレベルに到達する。			
学習目標 (到達目標)		消防設備士乙種第四類の法令および機器の問題が解ける			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		消防設備士4類試験対策テキスト&問題集 (秀和システム)			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	消防関係法令（共通） 防火対象物、消防の組織			テキストとノートにて わかりにくい用語の理解を中心に消防の制度を理解する (P.56～64)	
2	消防関係法令（共通） 消防用設備等・消防に関する資格 単元末試験			テキストとノートにて 設置単位等、数字で規制されているモノの意味を理解する (P.65～89)	
3	消防関係法令（類別） 自動火災報知設備			テキストとノートにて 設置基準とその例外について数字を中心に理解する (P.92～97)	
4	消防関係法令(類別) さまざまな感知器と受信機 単元末試験			テキストとノートにて 感知器・受信機各々の分類を学ぶ (P.98～110)	
5	構造・機能の電気 配線・ガス漏れ			テキストとノートにて 消防設備独特の配線についてとガス漏れ検知について、特徴を押さえる (P.112～123)	
6	感知器のしくみ 単元末試験			テキストとノートにて 感知器の分類についてと、対象物理と検知方法について、特徴を押さえる (P.124～141)	
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
取組み姿勢	単元末のテスト			授業の前に ( ) に示すページを読んでおくこと。 計算が多くなりますが、ノートをしっかり取って完全理解を目指しましょう。 PDF教材はiPadでの閲覧になります。	
%	100 %	%	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		電気・電子技術者として設計の現場に5年係わっていた 消防設備士甲種4～7類			